様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　令和 5 年　12 月　20 日

１．**職名・氏名**　学術教養センター　教授　石丸香苗

２．**学位**　　学位　農学博士、専門分野　森林生態学、授与機関　京都大学、授与年　2005 年

３．**教育活動**

(1) 講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

導入ゼミ(なぜから考える科学) (2 単位)　１年

②内容・ねらい（自由記述）

自然科学・社会科学ともに、科学の基本は疑問を持って、それを確かめたいという気持ちから始まります。このゼミでは、なぜ?の気持ちを持つ練習をします。目標①なぜ?という気持ちを持つことに慣れる②なぜ?と思った事について調べる力を身に付ける③なぜ?から真実に至るプロセスを正しくたどれる力や方法の基礎を身に付ける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

今年度から利用開始になったアクティブ・ラーニング室を利用して、ディスカッション・グループワークやフィールドワークなどを積極的に取り入れた。導入ゼミの共通資料や共用図書ができたので、それらも積極的に活用した。図書館の利用も積極的に行い、自主性を重視した授業開発を行った。また、新入生の履修登録漏れなどがないよう、例年以上に履修指導を丁寧に行った。

【ゲストスピーカー　０人】
【フィールドワーク等　２件】

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

教養ゼミ(エシカルな社会を考える) (2 単位)　１年

②　内容・ねらい（自由記述）

途上国や格差など、社会問題の根幹にある原因や、自らの行動により引き起こされる結果を想像し、より倫理的(エシカル)な社会のあり方を考えます。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義室だけではなく、図書館や情報演習室なども含みながら、ゲーム形式のシミュレーション、チームに分かれたディベート、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた。また、文献調査・文献管理ソフトの使い方、レポート作成やレジュメの作り方、スライド作成の時に配慮すべきコツ、メールの書き方など、専門課程において学業に必要となる知識や技能を身に着けられる内容にしている。

【ゲストスピーカー　０人】
【フィールドワーク等　２件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

地理学(2 単位)　全学年

②内容・ねらい（自由記述）

地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問である。本授業では地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
地理の情報を得るだけではなく、情報を空間的に整理してものごとを理解・推測できるような力を得られるように、授業の合間に小テストや質問を挟んでいる。小テストとふりかえりには毎回コメントを付して返却し、学習ポートフォリオとして期末レポートの参考に役立つようにしている。授業には折り紙を使った地形図の理解や、ビデオなど、飽きずに理解しやすい工夫をしている。また、取り上げる話題も、福井や海外、身の回りの事柄から世界の生活、宗教や言語と地理学など多岐にわたる分野を扱い、地理学のコンセプトが理解できるようにした。授業は講義形式以外に兼定島でのフィールドワークや、世界が 100 人の村だったらワークショップなど、体も動かせるタイプのアクティブ・ラーニングを取り入れた。

【ゲストスピーカー　1 人】
【フィールドワーク等　1 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
南米の社会と環境 (2 単位)　全学年

② 内容・ねらい（自由記述）
環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係している。よって環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になる。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはならない。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考える。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。先住民族の工芸づくり体験、ブラジルの福井村で国際協力に関わったゲストスピーカーによる現地のお話などを行い、アクティブ・ラーニングを取り入れて設計している。

【ゲストスピーカー　2 人】
【フィールドワーク等　0 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
情報基礎演習(1 単位)　1 年

② 内容・ねらい（自由記述）
パソコンに関する基本的知識と技能を習得する。タイピング、ワープロ、メール、情報検索、プレゼンテーション技法、クラウドの機能、データサイエンスの課題について自主的に学習する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
入学前の習熟度がバラバラであるため、一人ひとりに目を配るように気を付けている。提出物の遅い学生などにはフォローアップをしっかりと行った。各単元の最初ではかならず、この技能・知識を身に着けると、専門課程や社会人のどのような場面で役に立つのかを場面を想定して説明することで習熟意欲の向上に努めた。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　0 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ポルトガル語(1 単位)　全学年

② 内容・ねらい（自由記述）
福井県で最も多い外国人はブラジル人です。また、福井県から多くの方が移民としてブラジルへ行っています。私たちにかかわりの深いブラジルという国の文化や生活習慣を学ぶとともに、日々のコミュニケーションに生かせる入門的なポルトガル語会話を学びます。言葉だけではなく、考え方や習慣の違いがどのような背景によって生まれるのかを考える、多文化

共生の姿勢も考えます。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

馴染みのないポルトガル語を学ぶので、使用されているブラジルについての雑学を紹介することによって、関心を高める努力をした。毎回の小テストで各単元のれかぃどを確認している。履修者が 100 人超と多いため、Google Forms の自動採点を毎回の小テストに取り入れた。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　0 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

学術ゼミ（地域研究）(2 単位) 2-4 年

② 内容・ねらい（自由記述）

兼定島・下合月・上合月・磯部島・南今市・渡新田・坪ノ内・波松など、永平寺キャンパスとあわらキャンパス周辺の集落を訪れて観察したり住民に話を聞いたり、地域誌を調べることをとおして、大学近辺の地域とその成り立ちと特徴を探求する。学生が地元の集落を歩いて訪れることによって、福井や大学の地元についての造詣と親しみを深める。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

地区誌を調べる文献調査と、グループごとに集落を訪れて探求する巡検を自主的に行えるように指導した。具体的には、最初に兼定島を対象に地域誌を輪読して特徴を分析させ、実際に歩いて住民と話をしたり観察するなどして特徴を見つけていく。次にグループごとに自主研究を行わせ、最終回ではポスター発表を作成し、学生相互の評価を取り入れた。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　7 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

専攻演習　地域資源論演習Ⅰ(2 単位)　経済学研究科修士１−２年

② 内容・ねらい（自由記述）

自然や人、景観などを含めた地域資源利用に関する知見を深めるため、文献での学習とフィールドワークを併用する。参加者・教員間のディスカッションを中心に進める。 地域の資源利用の全体像を理解する。地域の文献から適切に情報を収集する方法を身に着ける。質的・量的データの収集方法を身に着ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

参加者の選んだ参考文献をテーマにしたディスカッションを中心として行った。反転授業として、学生に授業前に必ず当該箇所を読んでおくことを課したので、ディスカッションに長く時間を割けた。実際にアンケートを作成し学内で実施させたことで、量的・質的データ収集の基礎についても実践的に学んだ。フィールドワークを積極的に行い、自主的な調査の能力の涵養に努めた。

【ゲストスピーカー　8 人】
【フィールドワーク等　3 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

専攻演習　地域資源論演習Ⅱ(2 単位)　経済学研究科修士１-２年

② 内容・ねらい（自由記述）

修士論文作成に必要となる知識や技能を身に着けるとともに、それをとおして修士論文計画を自律的に立てる能力を身に着ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

インタビュー調査、アンケート調査、データ解析、文献調査、スライド・レジュメ作成など

のコツやポイントなど、必要だがしっかりと身に着けていない部分に注目し、具体的な対策を中心に綿密な指導を行っている。

【ゲストスピーカー　０人】
【フィールドワーク等　０件】

(2)その他の教育活動

- 食農環境実習Ⅰ・Ⅱ(創造農学科) 協力教員
- 経済学研究科研究科メンバー (経済学研究科前期課程学生の修士論文指導教員)

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0 本】

② 学術論文（査読あり）

【0 本】

③ その他論文（査読なし）

1. アンデス・アマゾン学会発表要旨集
2. 日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集

【2 本】

④ 学会発表等

1. アマゾン下流都市近郊の小農集落に導入されたプロジェクトについて アンデス・アマゾン学会第 12 回大会 2023 年 7 月
2. アマゾン小農の生産物の流通について 日本熱帯生態学会 第 33 回大会 2023 年 6 月

【2 件】

⑤ その他の公表実績

1. 第４７回全国育樹祭　１年前キックオフイベント「国民参加の森林（もり）づくりシンポジウム 2023 年 11 月 19 日
2. 東京外語大学・石丸代表科研 B 共催「森林住民から見たアマゾンの利用・保全・開発」公演・討論会 2023 年 12 月 6 日

【2 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

- (代表)「アマゾンの森を脆弱化させたのは誰か―ブラジル環境・開発政策の影響の科学的検証」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月-2024 年 3 月
- (分担)「研究データエコシステム構築事業(代表：京都大学フィールド研究センター, 徳地直子)」国立情報学研究所受託事業　2023 年度-2025 年度

【学内】

- (代表)「越前和紙原料の県内安定供給を可能にする非木材林産物に関する萌芽的研究」 福井県立大学 戦略的課題研究推進支援 2022 年 5 月-2024 年 3 月

(3)特許等取得

なし

(4)学会活動等

- 第 34 回熱帯生態学会(2024)福井大会　大会実行委員長
- アンデス・アマゾン学会　運営委員・編集委員

５．地域・社会貢献活動

①-2 委員就任(県)
福井県　森林審議会　委員　2002-

①-3 委員就任(県)
- 大野市　おおの森づくりプラン策定委員会　委員長　2023-
- 南越前町　名勝「おくのほそ道の風景地　湯尾峠」保存活用計画策定委員会　委員　2023-

④　国・地方公共団体等の受託事業等
第 47 回全国育樹祭 1 年前キックオフイベント「国民参加の森林づくりシンポジウム」コーティネーター

⑥ 大学間あるいは大学等後期要請の強い団体との共催事業等
全国ダイバーシティネットワーク北陸ブロック委員

６．大学運営への参画

(1)補職

- 学生部長　2023-
- 保健・学生相談センター長　2023-

(2)委員会・チーム活動

- 学生支援委員会 2023-
- 保健・学生相談センター運営委員 2023-
- 教育研究審議会 2023-
- 教育研究委員会 2023-
- 国際センター(仮)　準備委員会 2023-
- 文系新学部(仮称)準備会議 2023-
- キャリアセンターミーティング　2023-

(3)学内行事への参加

- 白樫祭にて教員ブース出店（教員有志で企画・実行。白樫際の学生見守り機能・学生や地域との交流を目的)
- 新入生向け履修相談会（学術教養センター)
- 履修登録指導（学術教養センター)

(4)その他、自発的活動など

- 学生チャレンジスペースプロジェクトを財務課・学生と共同企画
- ワールドカフェでブラジル福井村についての報告会を県庁国際経済課の谷口氏と共催(2023 年 6 月 21 日)
- ワールドカフェでにて、ワールドカフェスタッフと共催で、ウースター工科大学(Worcester Polytechnic Institution)の福井調査の報告会を企画開催(2023 年 11 月 28 日)